



図4. 岩美郡岩美町牧谷 熊井浜の個体 2006/7/29 撮影

点は、2005年の最初の確認地点から東向きにやや離れた場所で、両地点の間の砂浜には本種はみつからず、分布は連続していない。

**事例4**：また、2006年7月27日には筆者の一人清末が、事例1-3とは約50km離れた鳥取県東部の岩美郡岩美町牧谷の熊井浜〔同メッシュコード：5334-3217〕でも、2個体のオニハマダイコンが生育しているのを確認し、7月29日に採集した（標本：鳥取県立博物館収蔵，登録番号TRPM-PV-0001491）。他の植物より、最も汀線近くに生育していた。これらの個体は大きく、株の直径は60cm程度であった（図4）。この場所には1983年以降、毎年夏に訪れているが、2005年までは本種は確認されていなかった。

#### ■分布拡大経路について

今回報告した鳥取県におけるオニハマダイコンの記録は、これまで報告されている本種の定着記録から遠く離れており、また、西日本では今のところ鳥取県からしか報告されていない。したがって、鳥取県への定着はこれまでの推測とは異なる経路によるものか、あるいは新たな侵入である可能性が高い。なお、太刀掛・中村（2007）では岡山にも定着（帰化）と示されているが、著者らの調べでは岡山県内での定着は見つかっていない。これは、北日本における本種の採集記録（榎本 1995；狩山 1999）が岡山県内発行の雑誌に掲載されたため、岡山県内の採集記録と誤認したものと思われる。

これまで本種の分布拡大は、対馬海流による北上、千島海流による南下というルートが可能性として推測されていたが、本報告および富山県や石川県での記録（大原ら 2007 など）をふまえると、その他の海流経路や海流以外の分布拡大および新たな侵入などについ

ても検討する必要があると考えられる。

#### ■謝 辞

本稿執筆に当たり、文献の紹介や標本データの提供など多大な協力をいただいた、倉敷市立自然史博物館の狩山俊悟学芸員、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の小幡和男学芸員、千葉県立中央博物館の由良浩博士にそれぞれ感謝申し上げます。また、問題点の指摘と貴重なご助言をいただいた匿名の査読者の方々にもお礼申し上げます。

#### ■引用文献

- 阿部裕紀子（2005）学芸ノート 調査研究の現場から秋田県の帰化植物の現状とオニハマダイコン. 秋田県立博物館ニュース. 138: 5.
- 浅井康宏（1982）北米産の新帰化植物オニハマダイコン（新称）について. 植物研究雑誌 57(6): 187-191.
- 浅井康宏（1991）最近日本に渡来した帰化植物(1) オニハマダイコン. 自然史研究雑誌 1: 9-18.
- 浅井康宏（1993）緑の侵入者たち 帰化植物の話. 朝日新聞社, 294pp.
- 浅井康宏（1996）アブラナ科の帰化植物オニハマダイコン追記. 植物研究雑誌 71(1): 50-52.
- 土門尚三（1999）山形県北庄内の植物誌, 土門尚三, (自刊), 190pp.
- 榎本 敬（1995）自然の小さな記録 オニハマダイコンを秋田県で見つけました. しぜんくらしき. 12: 9.
- 茨城維管束植物調査会（2001）茨城県央地域の維管束植物. In: 「茨城県自然博物館第2次総合調査報告書－鶏足山塊・潤沼・県央海岸を中心とする県央地域の自然－」. (ミュージアムパーク茨城県自然博物館・小幡和男・池澤宏美・小池 渉 編), pp.125-209. ミュージアムパーク茨城県自然博物館.
- 五十嵐博（2001）北海道帰化植物便覧－2000年版－. 北海道野生植物研究所, 195pp.
- 伊東義政・湯澤陽一（2003）オニハマダイコン福島に帰化. フロラ福島. 20: 45-46.
- 狩山俊悟（1999）自然の小さな記録 分布を広げるオニハマダイコン. しぜんくらしき. 30: 28.
- 大原隆明・富山県中央植物園友の会植物誌部会・中田政司・水上成雄（2007）富山県フロラ資料(11). 富山県中央植物園研究報告 12: 57-76.
- 大森雄治（1987）瀬波海岸（新潟県）で採集した帰化植物・オニハマダイコン. 横須賀市博物館報 34: 28.
- 太刀掛優・中村慎吾 編（2007）改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会, 676pp.

- 
- 高橋美智子（1997） 初めてであった帰化植物の話. 北海道植物友の会会報「ボタニカ」 13.
- 内島立郎（2002） 仙台市深沼海岸で観察した帰化植物オニハマダイコンについて. 宮城の植物. 27: 16-17.